



飛騨市視察研修報告

令和7年6月27日実施

飛騨の語り部から「糸引き工女さんの本当の姿」を学ぶ

「糸都」岡谷市 は製糸業によって礎が築かれた街です。明治から昭和にかけて、飛騨地方からも多くの工女さんが出稼ぎに来ました。明治後期に鉄道が開通する以前は、工女さんたちは徒歩で野麦峠を越えました。その工女さんの本当の姿について「岡谷への感謝の気持ち」と共に語り継ぐ方がいます。飛騨市在住の鮎飛定男（あゆとびさだお）さん。今回、私たち岡谷市史編さん室では飛騨市教育委員会のご厚意により、鮎飛様と飛騨市長、都竹淳也（つづくじゅんや）様から貴重な話をお聞きすることができました。

飛騨の語り部 鮎飛定男（あゆとびさだお）さん

- 祖母つやさんは明治後期、14歳～20歳まで岡谷の製糸工場で工女として働く
- つやさんは、【映画】『あゝ野麦峠』の实在の主人公、政井みねと同時期、同郷の方

婆ちゃんが【映画】『あゝ野麦峠』を観たとしたら、「やくたいもねえ！（とんでもない）」と憤慨したと思う

映画が悪いというわけではないが、映画は映画
冬には行っていない。婆ちゃんは6月に行き11月に帰ってきた

「岡谷の人には本当にお世話になった。ありがたかった。」と婆ちゃんはいつも語っていた
私たちの町が潤ったのも、岡谷のおかげ

岡谷では…仕事の時間は長かったが…

- 白いご飯がお代わり自由（飛騨では、ひえ・あわ）
- 行事では旨い食べ物がでた
- おしゃれもできた
- 読み書きそろばん・針仕事を習った
- 運動会もあり饅頭が配られた
- 活動写真（映画）も楽しく、2日連続で観た
- 部屋ではお国自慢と歌を仲間と楽しんだ

当日は、岡谷市史編さん室職員6名の他に、飛騨市の職員、鮎飛さんの話を授業に生かそうとする「岐阜県高山市立日枝中学校」の先生2名の参加がありました。



鮎飛さんを変え、都竹淳也(つづくじゅんや)市長との懇談も行いました



顔画像は本人 Facebook より

「女工哀史から**女工讃史**へ」

鮎飛さんからつや婆ちゃんの話聞き、女工哀史を改める必要を感じた

岡谷の人と飛騨の人は、かつて同じ筑摩県(明治4年～9年)の県民だった

定男さんの証言がきっかけとなり、飛騨市教委は、2018 年度から3年間、貧しい家庭の生活を支えるために出稼ぎに出た女性たちの「史実」を調査した。… 調査の旗振り役となった都竹市長は、昨年9月、岡谷蚕糸博物館の開館60周年記念式典で講演。工女をめぐる歴史観の修正を呼びかけ「『女工哀史』から『女工讃史』へと訴えた」(中日新聞 2025.5.25)

飛騨市の美しい街並み



白壁土蔵街



専勝寺

政井みねが眠る

7月27日(日) 飛騨の先生方が岡谷市へ！！

鮎飛定男さんの語りを一緒に聴いた、高山市立日枝中学校の先生方が、岡谷蚕糸博物館等取材されました。

「女工哀史から女工讃史へ」教育現場でも、授業等を通し、工女の真の姿を伝えたいとのことです。

【画像】高林館長の指導で糸取り体験をする先生方



新しい岡谷市史編さんへ向けて

■第1回 岡谷市史編さん委員会【7月3日開催】

10名の委員に委嘱し、委員長に小口明則委員、副委員長に草間吉幸委員が選出されました。今後、編さん事業の基本方針等について審議を進めていきます。

【画像】市史編さん委員会での質疑

■第1回 岡谷市史編さんプロジェクトチーム会議【7月28日開催】

庁内各部署から集まった総勢 32 名のチーム員とともに、行政資料の掘り起こしなど、全庁あげて市史編さんに取り組んでいきます。

【画像】プロジェクト会議での講演

